

# 心身障害児の健康管理システム化に関する研究

## 一脳性運動障害児の早期発見、早期治療システムの開発一

分担研究者	内 山 裕（鹿児島県衛生部長）
	郡 司 篤 晃（前鹿児島県衛生部長）
	島 中 裕 幸（国立療養所南九州病院）
	田 中 洋（ ” ）
	今 村 正 人（小児科医院）
	折 田 勝 郎（鹿児島県保健予防課長）
	安 永 和 子（鹿児島県衛生部）
	原 口 タミ子（ ” ）
	加 藤 アヤ子（ ” ）
	宮 脇 康 代（ ” ）
	児 玉 アヤ子（鹿児島県蒲生町役場）

### はじめに

乳児健診の目的の一つに障害児の早期発見があり、発見された障害児を治療や療育に結びつけることが重要であるが、確定診断の遅れや、診断後の治療や指導をうけるシステムは確立されていない。

心身障害児対策は、発生予防、早期発見、早期治療からさらには早期療育へ、又地域における保健婦等によるフォローアップまでが、出生前から乳児期、幼児期へと一貫したシステムのもとに進められることが重要となる。

以上のような考えに基づき、システム確立のための研究に昭和55年より取り組んだ。55年、56年度と早期発見、早期治療ルートづくりの為、3～4か月児健診地区を拡大してきた。

3～4か月児健診（二次健診）が効果的に機能するよう、出生から乳児健診をうけるまでの3～4か月間に一定の方式を見出すべく、危険因子チェックカードも作成し、実施を試みた。同時に母子保健水準の向上を目ざし、保健婦研修も実施してきた。

母親の障害児妊娠時の状況から、児の現在の状

況までの経過について調査し、障害児（3歳から18歳まで）の健康管理の進め方についても検討した。

### 昭和57年度研究計画

#### I 56年度研究を継続して行う。

##### (1) 3～4か月児二次健診の実施（継続）

鹿児島県下の保健所（離島を除く）でキーステーション（その地域の中心地）と決めた次の保健所にて、健診もれをなくす、発見もれをなくす、対応もれをなくす目的で1か月1回健診を実施する。

鹿児島市：中央保健所、山下保健所

鹿児島県：加治木保健所、隼人保健所、鹿屋保健所、川内保健所

##### (2) 3～4か月児一次健診の実施（継続）

##### (3) 生下時体重1.500g以下の極小未熟児の追跡調査

##### (4) 上記健診結果に基づく、システム作りの現状の効果と評価。

##### (5) 在宅障害児管理に関する保健婦研修の実施及び母親（父親）への調査結果（55年度実施分）についての検討。

Ⅱ これまでの研究結果の総合評価

結果 1

(1) 表 1

保健所名	年間出生数	二次健診受診者数
鹿屋	鹿屋	2,257
	志布志	636
川内	川内	894
	出水	1,334
	宮之城	480
隼人	1,411	220
加治木	1,049	347

出生数は56年度

二次健診受診者数は57年1月より12月まで。上記二次健診対象者は、市町、県の保健婦によりスクリーニングされたもの、周産期センターなどよりハイリスクベビーとして連絡を受けたものである。

これらの受診者の中で異常児がどれだけあり、チェックしなかった者（二次健診にのせなかった者）の中にどれだけ障害児が含まれているかを現在調査中である。

(2) 鹿児島市、始良町、蒲生町における脳性麻痺発生率の推移は昨年報告した。

(3) 鹿児島市周産期センターでの生下時体重1,500g以下の極小未熟児をハイリスクベビーとしてとらえ、鹿児島県下の保健婦と、国立療養所南九州病院との協同作業として追跡調査した。

追跡調査対象は、昭和52年より、昭和55年12月までの出生で、男女132名（表2参照）である。

このうち2名は県外転出などの為、確認できなかった。残りの130名につき、最短1年6か月、最長4年6か月間観察した。

表 2 追跡調査対象数（57.7）

	1,000g以上 1,500g以下 110例		1,000g以下 22例		計
	男	女	男	女	
52年	6 (1)	6	0	0	12 (1)
53年	5	2	0	4	11
54年	27	14	0	7	48
55年	25 (1)	25	3	8	61 (1)
	63 (2)	47	3	19	132 (2)

( )は未確認

その結果、脳性麻痺は7名確認された。いずれも早期治療ルートにのっていた。このうち、未熟児網膜症を合併した者3名、てんかんを合併したものの2名、心疾患を合併したものの1名であった。

この外、水頭症2名、小頭症2名があり、脳性麻痺を含めて、双胎例が多く、2人共障害児という例はなかったが、一方が障害児である例が目についた。（表3参照）

次にこれらの障害児を除いて、歩行に到達した月令（修正月令）を調べたものが（表4）である。

1,000g以上1,500g以下73例と、1,000g以下19例に分けた。

昭和57年7月までに歩行に達しなかった5名のうち、4名は55年12月出生のもの、他の1名はWilson MikitySと診断された児であった。

この表でみるかぎり、熟産児とあまりかわりがないといえる。ただ、歩行到達月令を修正しても遅れる傾向のある群は存在する。

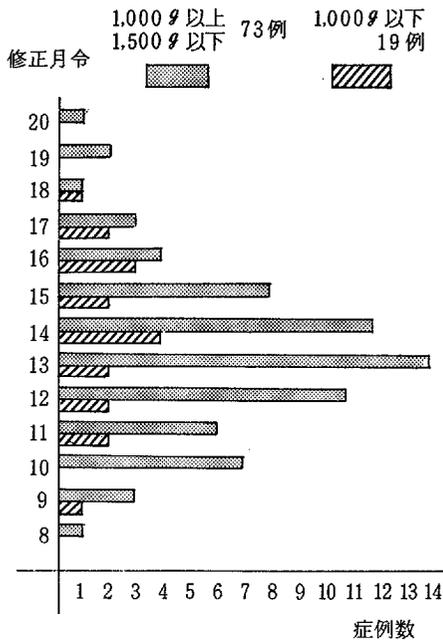
なお、この極小未熟児については今後、視覚、聴覚、言語発達、微細脳障害、知的発達などの追跡調査が残されている。

表3 追跡調査結果(57.7) 130例

	1,000円以上 1,500円以下 108例	1,000円以下 22例
C.P.+R.L.F.	3	0
C.P.+Ep	2	0
C.P.	0	1
C.P.+V.S.D.	1	0
水頭症	2	0
小頭症	2	0
先天奇形	3	0

	98例中	21例中
歩行に達したもの	92	19
未歩行	3	2
経過観察中	3	2

表4 歩行到達月令(修正月令) S 57.7



(4) システム作りの現状の効果と評価

最も遅くスタートした鹿屋保健所は、大隅半島(志布志保健所管内を含む)の中心地としての機能をねらったものである。

現状ではまだ志布志管内の受診者が少なかったり、3~4か月児の二次健診をた

てまえとしながらも、1才以上児がよく来たりする。効率の悪さに対応もれ(把握されているが早期治療や療育ルートにのっていない)がうかがわれる。

川内保健所は、同じく川薩地区、北薩地区のキーステーション化をねらったものである。鹿屋保健所と同様の状態といえることができる。隼人保健所は管内の町村よりもれなく受診者が来ており、効率の良さという点ではモデルケースとなりうるだろう。加治木保健所は、特定の町に片寄っており、一次健診からの脱皮ができないでいる。

- (5) 県下11保健所(指宿保健所、加世田保健所、伊集院保健所、川内保健所、宮之城保健所、出水保健所、大口保健所、加治木保健所、隼人保健所、志布志保健所、鹿屋保健所)、国立療養所南九州病院において把握した、昭和55年12月末現在満3歳以上18歳未満の脳性麻痺児の母親(230名)、父親(4名)計234名に対して保健婦による面接調査を行い、さらに154名の障害児を担当している保健婦に対して、心身障害児に関する保健婦の意識調査を実施し保健婦の研修受講が障害児の健康管理や、家族のケアの実践にどのように結びついているかをみた。

(調査結果は別冊参照)

この調査結果の概略

- イ 出産時の母親の年齢別妊娠中の異常(表5-1)で妊娠中の異常の有無をみると異常ありが100名(42.7%)となっている。鹿児島県の実施している妊婦一般健診結果では、異常ありは受診者7,587名中2,839名(37.4%)である。異常の内容は(表5-2)(ただし調査結果表では表7-2)。貧血について切迫流産の多いのが目立つ。

表 5 - 1

出産時の母親の年齢別妊娠中の異常

年齢	異常	有	無	不詳	計
～19才		2( 0.9)			2( 0.9)
20～24		25(10.6)	29(12.3)		54( 22.9)
25～29		43(18.3)	58(24.8)	2( 0.9)	103( 44.0)
30～34		22( 9.3)	28(12.0)	2( 0.9)	52( 22.2)
35～39		6( 2.6)	8( 3.4)		14( 6.0)
40～		2( 0.9)	4( 1.7)	1( 0.4)	7( 3.1)
不 明				2( 0.9)	2( 0.9)
計		100(42.7)	127(54.2)	7( 3.1)	234(100.0)

表 5 - 2 妊娠時の異常の内容

内 容	件 数
貧 血	24(20.8)
切 迫 流 産	23(19.8)
妊 娠 中 毒 症	21(18.1)
妊 娠 悪 阻	20(17.2)
切 迫 早 産	9( 7.8)
風 疹	1( 0.8)
そ の 他	18(15.5)
計	116(100.0)

複数解答

ロ 分娩時の異常で最も多いのは微弱陣痛 (19.4%)、ついで早期破水(15.0%)、遷延分娩(13.9%)、胎位異常(11.7%)以下吸引分娩、鉗子分娩、臍帯巻絡、帝王切開の順になっている。(表6参照、ただし調査結果では表10-2)

表 6 分娩時の異常の内容

内 容	件 数
微 弱 陣 痛	35( 19.4)
早 期 破 水	27( 15.0)
分 娩 時 間 遷 延	25( 13.9)
胎 位 異 常	21( 11.7)
吸 引 分 娩	21( 11.7)
鉗 子 分 娩	11( 6.1)
臍 帯 巻 絡	9( 5.0)
帝 王 切 開	8( 4.4)
そ の 他	23( 12.8)
計	180(100.0)

複数解答

ハ 障害児発見の状況について

表7(ただし調査結果表では表14)の異常に気づいた時期をみると、3か月以内が83名(35.5%)であり、その機会を表8(ただし調査結果表では表15)で見ると、家庭内が137名(58.6%)と最も高い。

3か月以内に異常に気づいた者83名中50名が3か月以内に異常の診断を受けている。

(調査結果表の別表参照)異常を診断された医療機関は、内科、小児科が最も多く118名で、そのうち41名(34.7%)は1歳以降で異常の診断を受けている。

脳性麻痺と診断された医療機関も内科、小児科が80名と最も多い。又、そのうち16名は3か月以内に脳性麻痺と診断されているが、障害の程度をみると8名は全面介助、6名は自立、2名は一部介助を要するという状況である。

表 7 児の異常に気づいた時期と異常を診断された時期

気づいた時期 診断された時期	～3 か月	4～6	7～9	10カ 月～	1才	2	3	4	5	不明	計
～3か月	50(21.4)										50(21.4)
4～6	10(4.3)	26(11.1)									36(15.4)
7～9	6(2.6)	8(3.4)	21(9.0)						1(0.4)		36(15.4)
10か月～	6(2.6)		4(1.7)	2(0.9)							12(5.1)
1才	7(3.1)	8(3.4)	3(1.3)	5(2.1)	31(13.2)					3(1.3)	57(24.2)
2	3(1.3)		1(0.4)		3(1.3)	10(4.3)				1(0.4)	18(7.7)
3	1(0.4)	2(0.9)	1(0.4)	1(0.4)	4(1.7)	1(0.4)	7(3.1)				17(7.3)
4							1(0.4)	2(0.9)			3(1.3)
5							1(0.4)			1(0.4)	2(0.9)
不 明		2(0.9)								1(0.4)	3(1.3)
計	83(35.5)	46(19.7)	30(12.8)	8(3.4)	38(16.2)	11(4.7)	9(3.8)	2(0.9)	1(0.4)	6(2.6)	234(100.0)

表8 児の異常に最初に気づいた機会

機 会		件 数
家 庭 内		137( 58.6)
医 療 機 関	分 娩 した 産 科	13( 5.6)
	産 科	5( 2.1)
	小 児 科	29( 12.4)
	小 児 科 以 外	12( 5.1)
小 計		59( 25.2)
母 相 子 談	市 町 村	14( 6.0)
	保 健 所	6( 2.6)
	小 計	20( 8.5)
健 診	乳 児	8( 3.4)
	三 才 児	5( 2.1)
	小 計	13( 5.6)
家 訪 庭 問	助 産 婦	1( 0.4)
	保 健 婦	4( 1.6)
	小 計	5( 2.1)
計		234(100.0)

表9(ただし調査結果表では表21)の保健婦の把握方法をみると、1歳以降把握の者は、福祉事務所等からの情報で得られているが、早期に把握された者は訪問、健診、相談等で把握され、年代別の推移がみられる。

表10(ただし調査結果表では表22)で訪問回数により保健婦の係わりの程度をみているが、6歳以降で把握した障害児よりも、早期に把握した障害児へ、より濃密に係わっていることがわかる。

表9 保健婦が児を把握した年齢別把握の方法

把握の方法 年 齢	公費 申請	健康 診査	健康 相談	家庭 訪問	病 院 から 連 絡	福祉事務 所からの 連 絡	56年度 57年度 調 査	その他	不 明	計
～3カ月	1(0.6)	5( 3.2)	2( 1.3)	4(2.6)				3(1.9)		15( 9.7)
4 ～ 6	1(0.6)	6( 3.9)	3( 1.9)	1(0.6)	1( 0.6)				1( 0.6)	13( 8.4)
7 ～ 9		2( 1.3)	2( 1.3)					1(0.6)		5( 3.2)
10カ月～			1( 0.6)						1( 0.6)	2( 1.3)
1才～ 3才未満	5(3.2)	2( 1.3)	2( 1.3)	1(0.6)	5( 3.2)	1( 0.6)	1( 0.6)	1(0.6)	4( 2.6)	22( 14.3)
3 ～ 5	5(3.2)	9( 5.8)	6( 3.9)	1(0.6)	1( 0.6)	3( 1.9)	2( 1.3)		5( 3.2)	32( 20.8)
6 ～ 8	1(0.6)	1( 0.6)	1( 0.6)	3(1.9)		2( 1.3)	4( 2.6)		7( 4.5)	19( 12.3)
9 ～ 11	1(0.6)					7( 4.5)	5( 3.2)		3( 1.9)	16( 10.5)
12才～				2(1.3)	1( 0.6)	4( 2.6)	4( 2.6)	1(0.6)	2( 1.3)	14( 9.0)
不 明	1(0.6)					1( 0.6)	2( 1.3)		12( 1.9)	16( 10.5)
計	15(9.7)	25(16.2)	17(11.0)	12(7.8)	8( 5.2)	18(11.7)	18(11.7)	6(3.9)	35(22.8)	154(100.0)

表 10 保健婦が児を把握した年齢別訪問回数

年齢 訪問回数	0 回	1～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～	不 明	計
～3カ月	1( 0.6)	4( 2.6)	4( 2.6)	2(1.3)	3(1.9)	1(0.6)			15( 9.7)
4～6		4( 2.6)	3( 1.9)	4(2.6)			2(1.3)		13( 8.4)
7～9			1( 0.6)	2(1.3)			2(1.3)		5( 3.2)
10カ月～	1( 0.6)		1( 0.6)						2( 1.2)
1才～ 3才未満	1( 0.6)	6( 3.9)	11( 7.1)	2(1.3)	2(1.3)				22( 14.3)
3～5	5( 3.2)	12( 7.8)	9( 5.8)	3(1.9)	1(0.6)		1(0.6)	1( 0.6)	32( 21.0)
6～8	5( 3.2)	9( 5.8)	3( 1.9)			2(1.3)			19( 12.3)
9～11	7( 4.5)	6( 3.9)	2( 1.3)					1( 0.6)	16( 10.4)
12才～	8( 5.2)	5( 3.2)	1( 0.6)						14( 9.1)
不 明								16( 10.4)	16( 10.4)
計	28(18.2)	46(30.9)	35(22.7)	13(8.4)	6(3.9)	3(1.9)	5(3.2)	18(11.7)	154(100.0)

ニ 保健婦の研修受講と障害児との係わり

最近、把握した障害児への係わりが心身障害児の研修が開始された52年度以前に把握された障害児よりも早く発見されて、低年齢化してきているという事から、児の発育発達段階のチェックをするようになったり、ハイリスク児のチェック、フォローの徹底を図る必要性を見直すなど、異常児を早期に発見し、早期医療、療育ルートにのせること、経過をみることで障害児の重度化防止につながるなどの認識を持つようになったのは評価できる。

結果 2

これまでの研究結果の総合評価

昭和52年度より2～3の市町で実施されていた3～4か月児健診が、他市町村でも実施されるようになったのは意義ある結果だと

考える。又、市町村での一次スクリーニングと保健所での二次健診との連携、効率化も、母子保健の水準向上に役立つものと評価したい。

これまでの健診結果から、脳性麻痺が鹿児島県においては(全国的傾向かもしれないが)減少傾向にあることは喜ばしい。

しかし一方では、今までは当然死亡していたようなケースが、医学の進歩によって立派に生存できるようにもなっている。

この為、地域ぐるみで発生予防、早期発見、早期治療、療育活動、さらに最終的には社会参加まで一貫した取り組みが必要である。

これらのどれをとっても保健婦の果たす役割は大きい。

# 心身障害児の健康管理システム化に関する研究（調査結果）

## 一脳性運動障害児の早期発見，早期治療システムの開発一

表1(F1) 障害児の性別，年齢別構成

年齢 \ 性別	男	女	計
3～5才	30(12.8)	15( 6.4)	45( 19.2)
6～8	20( 8.5)	18( 7.6)	38( 16.1)
9～11	24(10.3)	23( 9.8)	47( 20.1)
12～14	25(10.7)	27(11.5)	52( 22.3)
15～17	30(12.9)	22( 9.5)	52( 22.3)
計	129(55.2)	105(44.8)	234(100.0)

表3(F2) 両親の職業

区分	父親	母親	計
公務員	27(12.2)	1( 0.4)	28( 6.2)
会社員	41(18.5)	11( 4.8)	52( 11.5)
農林漁業	63(28.4)	70(30.4)	133(29.4)
自営業	25(11.2)	16( 7.0)	41( 9.0)
主婦		73(31.7)	73(16.2)
無職	4( 1.8)	3( 1.3)	7( 1.5)
その他	60(27.0)	43(18.7)	103(22.8)
不明	2( 0.9)	13( 5.7)	15( 3.4)
計	222(100.0)	230(100.0)	452(100.0)

母子家庭 12，父子家庭 4

表2(F2, F4) 調査時の母親の年齢別最終学歴

年齢 \ 学歴	中学卒	高校卒	短大卒	医療関係学校卒	その他	不明	計
～24才							
25～29	7( 3.0)	8( 3.4)		4( 1.7)			19( 8.1)
30～34	16( 6.9)	26(11.1)	3( 1.3)	1( 0.4)			46( 19.7)
35～39	34(14.5)	15( 6.5)	5( 2.1)	3( 1.3)	1( 0.4)		58( 24.8)
40～44	33(14.1)	27(11.5)			1( 0.4)		61( 26.0)
45～49	19( 8.1)	5( 2.1)			1( 0.4)		25( 10.6)
50～	8( 3.4)	4( 1.7)			6( 2.6)		18( 7.7)
不明	2( 0.9)	2( 0.9)				3( 1.3)	7( 3.1)
計	119(50.9)	87(37.2)	8( 3.4)	8( 3.4)	9( 3.8)	3( 1.3)	234(100.0)

(F3) 血族結婚

表4 鹿児島県(三歳児健診票より)

区分	県計	本土	離島
48年	3.5(%)	2.9(%)	5.9(%)
56年	1.1	0.8	2.4
56年調査対象者	5.6	5.6	

表5-1(F5) 母親の既往歴

有	無	不詳	計
45(19.2)	184(78.7)	5(2.1)	234(100.0)

表5-2(F) 既往歴の内容

内 容	件 数
貧血	13(23.2)
腎疾患	12(21.4)
肝疾患	6(10.7)
高血圧	4(7.1)
風疹	3(5.4)
呼吸器疾患	3(5.4)
甲状腺疾患	2(3.6)
子宮外妊娠	1(1.8)
子宮發育不全	1(1.8)
心疾患	1(1.8)
糖尿病	1(1.8)
その他	9(16.0)
計	56(100.0)

複数解答

表6(F6) 障害児妊娠, 出生順位

妊娠 出生										出生児数				
	1	2	3	4	5	6	7	8	計	1	2	3	4	5~
1	92 (39.5)	8 (3.4)	7 (3.0)						107 (45.9)	19 (8.2)	47 (20.2)	34 (14.5)	5 (2.1)	2 (0.9)
2		43 (18.5)	14 (6.0)	3 (1.3)		1 (0.4)			61 (26.2)		43 (18.4)	17 (7.3)	1 (0.4)	
3			28 (12.0)	9 (3.9)	2 (0.9)	1 (0.4)			40 (17.2)			32 (13.8)	7 (3.0)	1 (0.4)
4				9 (3.9)	3 (1.3)				12 (5.2)				11 (4.8)	1 (0.4)
5~					4 (1.7)	4 (1.7)	1 (0.4)	4 (1.7)	13 (5.6)					13 (5.6)
計	92 (39.5)	51 (21.9)	49 (21.0)	21 (9.1)	9 (3.9)	6 (2.5)	1 (0.4)	4 (1.7)	233 (100.0)	19 (8.2)	90 (38.6)	83 (35.6)	24 (10.3)	17 (7.3)

養女1名

表7-1(Q4, Q9)

出産時の母親の年齢別妊娠中の異常

妊娠中の異常 年齢	有	無	不詳	計
~19才	2 (0.9)			2 (0.9)
20~24	25 (10.6)	29 (12.3)		54 (22.9)
25~29	43 (18.3)	58 (24.8)	2 (0.9)	103 (44.0)
30~34	22 (9.3)	28 (12.0)	2 (0.9)	52 (22.2)
35~39	6 (2.6)	8 (3.4)		14 (6.0)
40~	2 (0.9)	4 (1.7)	1 (0.4)	7 (3.1)
不明			2 (0.9)	2 (0.9)
計	100 (42.7)	127 (54.2)	7 (3.1)	234 (100.0)

表7-2(Q4, Q9)

妊娠中の異常の内容

内 容	件 数
貧血	24(208)
切迫流産	23(198)
妊娠中毒症	21(181)
妊娠悪阻	20(172)
切迫早産	9(78)
風疹	1(08)
その他	18(155)
計	116(100.0)

複数解答

表8(Q4, Q11, Q12) 妊娠中の異常, 分娩施設別分娩時の異常

施設別 分娩時の 異常	病院・診療所				助産所				自宅				不詳	計			
	有	無	不詳	計	有	無	不詳	計	有	無	不詳	計	不詳	有	無	不詳	計
有	47 (20.1)	25 (10.7)		72 (30.8)	6 (2.6)	5 (2.1)		11 (4.7)	10 (4.2)	5 (2.1)	2 (0.9)	17 (7.2)		63 (26.9)	57 (24.4)	3 (1.3)	123 (52.6)
無	43 (18.3)	33 (14.1)	1 (0.4)	77 (32.9)	9 (3.8)	13 (5.6)		22 (9.4)	5 (2.1)	23 (9.9)		28 (12.0)		35 (15.0)	69 (29.3)	2 (0.9)	106 (45.2)
不詳	2 (0.9)		1 (0.4)	3 (1.3)					1 (0.4)	2 (0.9)		3 (1.3)	1 (0.4)	2 (0.9)	1 (0.4)	2 (0.9)	5 (2.2)
計	92 (39.3)	58 (24.8)	2 (0.9)	152 (65.0)	15 (6.4)	18 (7.7)		33 (14.1)	16 (6.7)	30 (12.9)	2 (0.9)	48 (20.5)	1 (0.4)	100 (42.8)	127 (54.1)	7 (3.1)	234 (100.0)

表9-1(F1, Q3) 児の年齢(年代)別初診時の妊娠週数

年齢	妊娠週数		初 期 (~15週)	中 期 (16~27週)	後 期 (28~40週)	未受診	不詳	計
	年代							
3~5才	S	50.8~53.7	36(15.4)	7(3.0)	1(0.4)		1(0.4)	45(19.2)
6~8		47.8~50.7	31(13.2)	4(1.8)	2(0.8)		1(0.4)	38(16.3)
9~11		44.8~47.7	33(14.1)	9(3.8)	1(0.4)	2(0.8)	2(0.8)	47(20.1)
12~14		41.8~44.7	37(15.8)	8(3.4)	1(0.4)		6(2.6)	52(22.2)
15~17		38.8~41.7	38(14.1)	10(4.3)	5(2.2)	1(0.4)	3(1.3)	52(22.2)
計			170(72.7)	38(16.2)	10(4.3)	3(1.3)	13(5.6)	234(100.0)

表9-2(Q3, Q9) 出産時の母親の年齢別初診時の妊娠週数

年齢	妊娠週数	初 期 (~15週)	中 期 (16~27週)	後 期 (28~40週)	未受診	不詳	計
~19才			2(0.9)				2(0.9)
20~24		44(18.8)	7(3.1)	1(0.4)		2(0.9)	54(23.0)
25~29		79(33.8)	17(7.3)	2(0.9)		5(2.1)	103(44.0)
30~34		33(14.1)	11(4.7)	3(1.3)	1(0.4)	4(1.7)	52(22.2)
35~39		8(3.4)	1(0.4)	3(1.3)	1(0.4)	1(0.4)	14(5.9)
40~		5(2.2)		1(0.4)	1(0.4)		7(3.1)
不明		1(0.4)				1(0.4)	2(0.9)
計		170(72.7)	38(16.2)	10(4.3)	3(1.3)	13(5.6)	234(100.0)

表9-3 (F6, Q3) 障害児の出生順位別初診時の妊娠週数

出生順位	妊娠週数	初期 (~15週)	中期 (16~27週)	後期 (28~40週)	未受診	不詳	計
第1子		86(36.9)	14( 6.0)	1(0.4)		6(2.6)	107( 46.1)
2		43(18.4)	13( 5.6)	2(0.9)		3(1.3)	61( 26.1)
3		28(12.0)	5( 5.1)	4(1.7)	2(0.9)	1(0.4)	40( 17.1)
4		8( 3.4)	3( 1.3)	1(0.4)			12( 5.1)
5 以上		5( 2.1)	2( 0.9)	2(0.9)	1(0.4)	3(1.3)	13( 5.6)
計		170(72.7)	38(16.2)	10(4.3)	3(1.3)	13(5.6)	234(100.0)

表10-1(Q9, Q12)

出産時の母親の年齢別分娩時の異常

年齢	異常			
	有	無	不詳	計
~19才	1 ( 0.4)	1 ( 0.4)		2 ( 0.9)
20~24	30 (12.8)	23 ( 9.8)	1 (0.4)	54 (23.0)
25~29	60 (25.6)	43 (18.4)		103 (44.0)
30~34	23 ( 9.8)	28 (12.0)	1 (0.4)	52 (22.2)
35~39	6 ( 2.6)	7 ( 3.1)	1 (0.4)	14 ( 5.9)
40~	3 ( 1.3)	4 ( 1.7)		7 ( 3.1)
不明			2 (0.9)	2 ( 0.9)
計	123 (52.7)	106 (45.2)	5 (2.1)	234 (100.0)

表10-2(Q12-SQ1)

分娩時の異常の内容

内 容	件 数
微弱陣痛	35( 19.4)
早期破水	27( 15.0)
分娩時間遷延	25( 13.9)
胎位異常	21( 11.7)
吸引分娩	21( 11.7)
鉗子分娩	11( 6.1)
臍帯巻絡	9( 5.0)
帝王切開	8( 4.4)
その他	23( 12.8)
計	180(100.0)

複数解答

表11(Q4, Q12) 妊娠中、分娩時の異常

分娩時の異常	妊娠中の異常			計
	有	無	不詳	
有	63(26.9)	57(24.4)	3(1.3)	123( 52.6)
無	35(15.0)	69(29.3)	2(0.9)	106( 45.2)
不詳	2( 0.9)	1( 0.4)	2(0.9)	5( 2.2)
計	100(42.8)	127(54.1)	7(3.1)	234(100.0)

表12-1 ( Q10, Q13 ) 在胎週数別生下時体重

生下時 体重 在胎週数	1000 ~1499	1500 ~1999	2000 ~2499	2500 ~2999	3000 ~3499	3500 ~3999	4000~	不明	計
~26週	1(0.4)	2(0.9)							3(1.3)
27~36	7(3.1)	18(7.8)	18(7.8)	6(2.6)				2(0.9)	51(21.8)
37~42	1(0.4)	6(2.6)	12(5.1)	54(23.1)	59(25.2)	25(10.7)	3(1.3)	9(3.8)	169(72.1)
43~					3(1.3)	1(0.4)	2(0.9)	1(0.4)	7(3.1)
不明				3(1.3)				1(0.4)	4(1.7)
計	9(3.9)	26(11.1)	30(12.8)	63(26.9)	62(26.5)	26(11.1)	5(2.1)	13(5.6)	234(100.0)

表12-2 ( Q4, Q12 ) 妊娠中の異常別生下時体重

生下時 体重 妊娠中の異常	1000 ~1499	1500 ~1999	2000 ~2499	2500 ~2999	3000 ~3499	3500 ~3999	4000~	不明	計
有	6(2.6)	13(5.5)	18(7.8)	25(10.7)	23(9.8)	6(2.6)	3(1.3)	6(2.6)	100(42.8)
無	3(1.3)	13(5.5)	12(5.1)	37(15.8)	38(16.2)	17(7.3)	2(0.9)	5(2.1)	127(54.1)
不明				1(0.4)	1(0.4)	3(1.3)		2(0.9)	7(3.1)
計	9(3.9)	26(11.1)	30(12.8)	63(26.9)	62(26.5)	26(11.1)	5(2.1)	13(5.6)	234(100.0)

表13-1 ( Q15 )

新生児期の黄疸

程 度	件 数
強かった	54(23.1)
普通	162(69.2)
不詳	18(7.7)
計	234(100.0)

表13-2 ( Q15-SQ<sub>1</sub>, SQ<sub>2</sub> )

児の年齢別黄疸の強かった者の治療状況

治療 内容 年齢	有				無	不詳	計
	交換 輸血	光線 療法	その他	計			
3~5才	2 (3.7)	3 (5.6)	5 (9.3)	10 (18.5)		1 (1.9)	11 (20.4)
6~8	1 (1.9)	2 (3.7)	1 (1.9)	4 (7.4)		1 (1.9)	5 (9.3)
9~11	2 (3.7)		4 (7.4)	6 (11.1)		5 (9.3)	11 (20.4)
12~14			4 (7.4)	4 (7.4)	6 (11.1)	1 (1.9)	11 (20.4)
15~17			3 (5.6)	3 (5.6)	11 (20.4)	2 (3.7)	16 (29.6)
計	5 (9.3)	5 (9.3)	17 (31.4)	27 (50.0)	17 (31.5)	10 (18.5)	54 (100.0)

母子手帳より

表14 (Q18-SQ<sub>2</sub>, Q20) 児の異常に気づいた時期と異常を診断された時期

気づいた時期 診断された時期	～ 3カ月	4～6	7～9	10カ月～	1才	2	3	4	5	不明	計
～3カ月	50 (21.4)										50 (21.4)
4～6	10 (4.3)	26 (11.1)									36 (15.4)
7～9	6 (2.6)	8 (3.4)	21 (9.0)								36 (15.4)
10カ月～	6 (2.6)		4 (1.7)	2 (0.9)					1 (0.4)		12 (5.1)
1才	7 (3.1)	8 (3.4)	3 (1.3)	5 (2.1)	31 (13.2)					3 (1.3)	57 (24.2)
2	3 (1.3)		1 (0.4)		3 (1.3)	10 (4.3)				1 (0.4)	18 (7.7)
3	1 (0.4)	2 (0.9)	1 (0.4)	1 (0.4)	4 (1.7)	1 (0.4)	7 (3.1)				17 (7.3)
4							1 (0.4)	2 (0.9)			3 (1.3)
5							1 (0.4)			1 (0.4)	2 (0.9)
不明		2 (0.9)								1 (0.4)	3 (1.3)
計	83 (35.5)	46 (19.7)	30 (12.8)	8 (3.4)	38 (16.2)	11 (4.7)	9 (3.8)	2 (0.9)	1 (0.4)	6 (2.6)	234 (100.0)

表15 (Q18) 児の異常に最初に気づいた機会

機 会		件 数	機 会		件 数	
家 庭 内		137 (58.6)	健 診	乳 児	8 (3.4)	
医 療 機 関	分娩した産科	13 (5.6)		三 才 児	5 (2.1)	
	産 科	5 (2.1)		小 計	13 (5.6)	
	小 児 科	29 (12.4)		家 庭 訪 問	助 産 婦	1 (0.4)
	小 児 科 以 科	12 (5.1)			保 健 婦	4 (1.6)
	小 計	59 (25.2)			小 計	5 (2.1)
母 子 相 談	市 町 村	14 (6.0)	計		234 (100.0)	
	保 健 所	6 (2.6)				
	小 計	20 (8.5)				



		医 療 機 関 と 時 期																												
		整 形 外 科						そ の 他						不 明						合 計										
		～3 3カ月	4～6 6カ月	7～9 9カ月	10～11 11カ月	1才～ 不明	計	～3 3カ月	4～6 6カ月	7～9 9カ月	10～11 11カ月	1才～ 不明	計	～3 3カ月	4～6 6カ月	7～9 9カ月	10～11 11カ月	1才～ 不明	計	～3 3カ月	4～6 6カ月	7～9 9カ月	10～11 11カ月	1才～ 不明	計					
鹿 大 南 九 性 麻 痺 と 診 断 さ れ た 機 関 と 時 期	鹿	～3カ月																		4					4					
	鹿	4～6カ月																			7					7				
	鹿	7～9カ月							1			1									1	4				5				
	鹿	10～11カ月																												
	鹿	1才～																					5	1	18	24				
	鹿	不 明																												
	鹿	計																			4	8	9	1	18	40				
	南	～3カ月																			5					5				
	南	4～6カ月																			2	5				7				
	南	7～9カ月																			1		3			4				
	南	10～11カ月																						4		4				
	南	1才～																			2			1	11	14				
	南	不 明																			1					1				
	南	計																			11	5	3	5	11	35				
	内 科	～3カ月																			16					16				
	内 科	4～6カ月																			1	8				9				
	内 科	7～9カ月																				1	11			12				
	内 科	10～11カ月																						4		4				
小 児 科	1才～																							30	38					
小 児 科	不 明																						1		1					
小 児 科	計	1																		1	20	12	14	4	30	80				
産 婦 人 科	～3カ月																				2				2					
産 婦 人 科	4～6カ月																													
産 婦 人 科	7～9カ月																													
産 婦 人 科	10～11カ月																													
産 婦 人 科	1才～																													
産 婦 人 科	不 明																													
産 婦 人 科	計																				2				2					
整 形 外 科	～3カ月	1																			1				1					
整 形 外 科	4～6カ月	1	3																		1	3			4					
整 形 外 科	7～9カ月			2																	1		2		3					
整 形 外 科	10～11カ月																													
整 形 外 科	1才～		1	2	14	17	1					1	2								3	2	3	20	28					
整 形 外 科	不 明																													
整 形 外 科	計	2	4	4	14	24	1					1	2								6	5	5	20	36					
そ の 他	～3カ月						1						1								2				2					
そ の 他	4～6カ月							4					4								1	4			5					
そ の 他	7～9カ月																													
そ の 他	10～11カ月																				1				1					
そ の 他	1才～	1	2	3	6								7	7								2	1	3	27					
そ の 他	不 明																								1					
そ の 他	計	1	2	3	6	1	4						7	12								2	1	3	36					
不 明	～3カ月																													
不 明	4～6カ月																													
不 明	7～9カ月														1							1			1					
不 明	10～11カ月																													
不 明	1才～																							1	1					
不 明	不 明																							3	3					
不 明	計														1							3	3	2	5					
合 計	～3カ月	1					1	1					1								30				30					
合 計	4～6カ月	1	3				4	4					4								5	27			32					
合 計	7～9カ月			2			2	1	1				2		1						1	2	1	21	25					
合 計	10～11カ月																							8	9					
合 計	1才～	1	2	4	18	25	2	1	10				13								3	1	4	10	8	14	4	96	1	132
合 計	不 明						1						1											3	6					
合 計	計	3	5	6	18	32	5	4	2	1	10		22		1						6	1	8	50	36	36	12	99	1	234

		障 害 の 程 度																										
		自 立					一 部 介 助					全 面 介 助					計											
		3 才	6 才	9 才	12 才	15 才	不 明	計	3 才	6 才	9 才	12 才	15 才	不 明	計	3 才	6 才	9 才	12 才	15 才	不 明	計						
鹿	~3ヵ月	1					1								3	1	1	2				4						
	4~6ヵ月		1		1		2	1						1	1	1		2			4	1	3		3		7	
大	7~9ヵ月					1	1				1	1		2			1		1		2			1	1	3		5
	10~11ヵ月																											
不	1才~		4	2	1	1	8		2		1	1		4	3		3	3	3		12	3	6	5	5	5		24
	不 明																											
南	計	1	5	2	2	2	12		3		2	2		7	4	2	6	5	4		21	5	10	8	9	8		40
	~3ヵ月	1					1	2	1					3	1						1	4	1					5
九	4~6ヵ月		3				3								4						4	7						7
	7~9ヵ月		2				2	1						1	1						1	4						4
性	10~11ヵ月							3						3	1						1	4						4
	1才~		5				5	4						4	4		1				5	13		1				14
麻	不 明																				1		1					1
	計	11					11	10	1					11	11	1	1				13	32	2	1				35
小	~3ヵ月	1	1	1	3		6			1	1			2	2	2				2	8	3	3	4	4	2		16
	4~6ヵ月				1		3		1		2			3	1	1	1				3	2	2	3	2			9
と	7~9ヵ月	1	2			2	5						2	2		1	1	1	2		5	1	3	1	1	6		12
	10~11ヵ月														2	1		1			4	2	1		1			4
産	1才~		4	1	4	6	15				2	4		6		1	6	6	4		17	5	7	12	14			38
	不 明					1	1																			1		1
断	計	2	7	3	8	10	30		1	1	5	6		13	2	7	11	8	9		37	4	15	15	21	25		80
	~3ヵ月										1	1		2											1	1		2
れ	4~6ヵ月																											
	7~9ヵ月																											
た	10~11ヵ月																											
	1才~																											
整	不 明																											
	計									1	1			2											1	1		2
形	~3ヵ月				1		1																				1	1
	4~6ヵ月				2	1	3																			3	1	4
外	7~9ヵ月				1		1											1	1			1				1	2	3
	10~11ヵ月																											
療	1才~	1	2	6	7	4	20		1		2			3		1	1	3		5	1	3	7	10	7		28	
	不 明																											
機	計	1	2	6	10	6	25		1		2			3		2	3	3		8	1	3	8	15	9		36	
	~3ヵ月		1				1										1				1		1	1				2
関	4~6ヵ月					2	2									1	1	1			3		1	1	1	2		5
	7~9ヵ月																											
と	10~11ヵ月														1						1	1						1
	1才~		3	6	1	3	13	1	2		1	2		6	1		3	1	3		8	2	5	9	3	8		27
時	不 明																											
	計	4	6	1	5		16	1	2		1	2		6	2	2	5	2	3		14	3	8	11	4	10		36
期	~3ヵ月																											
	4~6ヵ月																											
不	7~9ヵ月			1			1																		1			1
	10~11ヵ月																											
明	1才~																				1					1		1
	不 明			2			2														1				2	1		3
合	計		3				3														2			3	2			5
	~3ヵ月	3	2	1	3	1	10	2	1	2	2			7	3	3	5		2		13	8	6	8	5	3		30
計	4~6ヵ月	3	1	1	3	5	13		2		2			4	5	3	2	5			15	8	6	3	10	5		32
	7~9ヵ月	3	2	1	1	3	10		1			1	3		5	1	1	3	2	3	10	5	3	4	4	9		25
計	10~11ヵ月							3						3	2	2	1		1		6	5	2	1		1		9
	1才~	6	13	15	13	14	61	5	5		6	7		23	8	1	14	12	13		48	19	19	29	31	34		132
計	不 明			2	1		3		8												3		2	2	2			6
	計	15	18	20	21	23	97	11	8	2	11	10		42	19	12	25	19	20		95	45	38	47	52	52		234





表18-2 (Q26-SQ4)

区分 年齢	件数	かぶりのシャツの着脱			前あきのシャツ			ズボンの着脱			ソックス			クサ					
		座			昇			降			右			左					
		できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない			
3~5才	45	14	10	21	11	6	28	不明	18	6	21	不明	14	8	23	14	8	23	
6~8	38	20	3	15	15	6	17		20	2	16		14	9	15	14	9	15	
9~11	47	21	2	24	16	5	26		22	2	23		19	3	25	19	3	25	
12~14	52	26	2	24	19	4	28	1	24	2	26		20	6	25	21	5	25	
15~17	52	25	4	23	21	2	29		26	4	22		21	5	26	21	4	27	
計	234	106	21	107	82	23	128	1	110	16	108		88	31	114	1	89	29	
割合 (100.0)		(45.3)	(9.0)	(45.7)	(35.0)	(9.8)	(54.8)	(0.4)	(47.1)	(6.8)	(46.1)		(37.6)	(13.2)	(48.8)	(0.4)	(38.0)	(12.4)	(49.2)

表18-3 (Q26-SQ5, SQ6, SQ7, SQ8)

区分 年齢	件数	坐			昇			階			階段			片足で立つ			真結び			
		位			る			降			り			立			つ			
		できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	できる	うまくできない	全くできない	
3~5才	45	34	3	8	21	5	19	不明	19	6	20	不明	14	31		12	33	不明	9	36
6~8	38	27	2	9	22	3	13		18	7	13		25	13		25	13		6	31
9~11	47	30	6	11	18	5	24		17	6	24		12	33	2	12	33	2	16	30
12~14	52	45	4	3	23	9	19	1	22	9	20	1	16	34	2	18	32	2	17	35
15~17	52	36	6	10	26	4	21	1	25	5	21	1	13	37	2	15	35	2	14	37
計	234	172	21	41	110	26	96	2	101	33	98	2	80	148	6	32	146	6	62	169
割合 (100.0)		(73.5)	(9.0)	(17.5)	(47.0)	(11.1)	(41.0)	(0.9)	(43.2)	(14.1)	(41.9)	(0.8)	(34.2)	(63.2)	(2.6)	(35.0)	(62.4)	(2.6)	(26.5)	(72.2)

表19-1 (Q27, Q28) 介護上の困難

	介護上の困難項目	回答数(103)
不安なところ	○将来自活できるだろうか(就職, 結婚等)	26(25.2)
	○治療(服薬, 機能訓練, 手術等)で児の成長, 発達, 自立をどこまで望めるか。	17(16.5)
	○母親が病気, 老後, 死亡した時, 誰が世話をしてくれるか。	17(16.5)
	○合併症(けいれん, 発熱しやすい等)体力の減退が心配	13(12.6)
	○不慮の事故(ころびやすい等)	8( 7.8)
	○施設退所後が心配(自宅でみられない)	7( 6.8)
	○学校について(普通校にいけるか, ついていけるか, 養護学校がよいか)	4( 3.9)
	○児自身障害に気づいた時の精神的ショック	1( 1.0)
	○その他	10( 9.7)
	困っているところ	○言葉がわからない。
○自立できない(排泄, 歩行, 入浴等)		16(22.0)
○訓練が思うようにできない。		6( 8.2)
○なし		6( 8.2)
○施設入所させたいが適当な所がない。		4( 5.5)
○むし歯の治療ができない。		4( 5.5)
○施設での面会, 外泊が思うようにできない。		3( 4.1)
○勉強しない。		3( 4.1)
○偏食		2( 2.7)
○施設から帰宅することで父母の意見が違う(父は在宅希望)		1( 1.4)
○その他	8(11.0)	
大変なところ	○児の成長にともない介護人の負担が大きい。	回答数(24) 7(29.0)
	○施設への送迎(遠い, 時間がかかる)	6(25.0)
	○怒りっぽくわがままで自己主張が強い。	4(16.6)
	○施設から休暇で帰宅した時, 入浴, 排泄の世話がうまくできない(施設がない等)	4(16.6)
	○目がはなせない(どこへでも行く, 発作等)	3(12.5)
	○その他	1( 4.1)

表19-2 (Q27, Q28) 介護による生活上の影響

項	目	回答数(22)
○	仕事や用事があっても外出できない。	6(27.3)
○	経済的負担が大きい。	5(22.7)
○	家族や近所の人達の理解がない。	4(18.2)
○	家族に病気の人があると児の面倒を十分みてやれない。	3(13.6)
○	自由な時間が欲しい。	1( 4.6)
○	その他	3(13.6)

表 20 57年度調査対象者性別  
年齢別構成

性別 年齢	性別		計
	男	女	
～3才	5 ( 3.2)	5 ( 3.2)	10 ( 6.4)
3～5	21 (13.6)	11 ( 7.1)	32 (21.0)
6～8	15 ( 9.7)	9 ( 6.0)	24 (15.6)
9～11	16 (10.4)	17 (11.0)	33 (21.4)
12～14	17 (11.0)	9 ( 6.0)	26 (16.9)
15～17	17 (11.0)	12 ( 7.8)	29 (18.7)
計	91 (58.9)	63 (41.1)	154 (100.0)

表 22 保健婦が障害児を把握した年齢別訪問回数

訪問回数 年齢	訪問回数								不明	計
	0回	1～3	4～6	7～9	10～12	13～15	16～			
～3カ月	1 (0.6)	4 (2.6)	4 (2.6)	2 (1.3)	3 (1.9)	1 (0.6)				15 ( 9.7)
4～6		4 (2.6)	3 (1.9)	4 (2.6)			2 (1.3)			13 ( 8.4)
7～9			1 (0.6)	2 (1.3)			2 (1.3)			5 ( 3.2)
10カ月～	1 (0.6)		1 (0.6)							2 ( 1.2)
1才～ 3才未満	1 (0.6)	6 (3.9)	11 (7.1)	2 (1.3)	2 (1.3)					22 (14.3)
3～5	5 (3.2)	12 (7.8)	9 (5.8)	3 (1.9)	1 (0.6)		1 (0.6)	1 (0.6)		32 (21.0)
6～8	5 (3.2)	9 (5.8)	3 (1.9)				2 (1.3)			19 (12.3)
9～11	7 (4.5)	6 (3.9)	2 (1.3)						1 (0.6)	16 (10.4)
12才～	8 (5.2)	5 (3.2)	1 (0.6)							14 ( 9.1)
不明									16 (10.4)	16 (10.4)
計	28 (18.2)	46 (30.9)	35 (22.7)	13 (8.4)	6 (3.9)	3 (1.9)	5 (3.2)	18 (11.7)		154 (100.0)

表 21 保健婦が障害児を把握した年齢別把握の方法

把握の方法 年齢	把握の方法									計
	公費申請	健康診査	健康相談	家庭訪問	病院からの連絡	福祉事務所からの連絡	56年度 57年度 調査	その他	不明	
～3カ月	1 (0.6)	5 ( 3.2)	2 ( 1.3)	4 (2.6)				3 (1.9)		15 ( 9.7)
4～6	1 (0.6)	6 ( 3.9)	3 ( 1.9)	1 (0.6)	1 (0.6)				1 (0.6)	13 ( 8.4)
7～9		2 ( 1.3)	2 ( 1.3)					1 (0.6)		5 ( 3.2)
10カ月～			1 (0.6)						1 (0.6)	2 ( 1.3)
1才～ 3才未満	5 (3.2)	2 ( 1.3)	2 ( 1.3)	1 (0.6)	5 (3.2)	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.6)	22 (14.3)
3～5	5 (3.2)	9 ( 5.8)	6 ( 3.9)	1 (0.6)	1 (0.6)	3 ( 1.9)	2 ( 1.3)		5 (3.2)	32 (20.8)
6～8	1 (0.6)	1 (0.6)	1 (0.6)	3 (1.9)		2 ( 1.3)	4 (2.6)		7 (4.5)	19 (12.3)
9～11	1 (0.6)					7 (4.5)	5 (3.2)		3 (1.9)	16 (10.5)
12才～				2 (1.3)	1 (0.6)	4 (2.6)	4 (2.6)	1 (0.6)	2 (1.3)	14 ( 9.0)
不明	1 (0.6)					1 (0.6)	2 ( 1.3)		12 ( 9.1)	16 (10.5)
計	15 (9.7)	25 (16.2)	17 (11.0)	12 (7.8)	8 (5.2)	18 (11.7)	18 (11.7)	6 (3.9)	35 (22.8)	154 (100.0)

57年度調査対象児のうち、生後3カ月以内に異常を診断され保健婦が把握した者

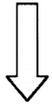
番号	生年月日 (年齢)	把握		診断までの 保健婦のかかわり	調査(訪 56年 8月 までの 月)間	健診・相談状況		研修受講状況				
		時期	方法			名称	月令	南九のみ	助のみ	南九助	未受講	
1	56.12.12	2 か月	3 か月児 育児相談	育児相談(股関節拘縮)にて精検勧奨	1	育児相談 菊野病院受診 鹿大受診	2 か月 3 か月	〇				
2	56.1.28	3 か月	3か月児健診 (町実施)	健診時精検受診票発行	不明	3か月児健診	3 か月					〇
3	56.1.25	1 か月	未熟児訪問	訪問時、PHNに異常に気づき南九州病院受診勧奨、精検受診票発行	3	南九受診 乳児健診 1才6か月健診	2 か月 3 か月 1才6か月	〇				
4	55.6.16	3 か月	乳児健診	乳児健診で指摘 専門医受診勧奨	10	乳児健診 南九受診	3 か月					〇
5	55.2.17	1か月未満	乳児精密 検診	出生時、強度の仮死があったため訪問。 精検受診票発行	4	南九受診 母子相談 乳児健診	0 か月 4 か月 8 か月					〇
6	55.1.24	3 か月	3 か月 児健診	3か月児健診にて先股脱の疑いで精検受診票発行、脳性マヒを指摘	1	3か月児健診 母子相談 クリニック 乳健,1才6か月	3 か月 2 回 5 回					〇
7	53.5.11	3 か月	母子相談 (町実施)	有(市町村PHN)	12	母子相談 南九受診	3 か月	〇				
8	52.11.27	出生直後	養育医療 申請	未熟児であったため、ハイリスクとして把握	2	1か月健診 3か月 母子相談 1才6か月,3才児	1 3 か か 月 月 2 回					〇
9	52.10.21	生後2日	受診	なし(異様な泣き声のため受診)	5	不明	なし	〇				
10	52.5.14	1か月未満	相談に来所	第一子と比較してどうもおかしいと来所	6	母子相談 乳児健診	2 か月 6 か月					〇
11	52.2.20	1 か月	家庭訪問	発育遅延のため市立病院受診、三叉神経痛と診断頸座が遅いため南九州病院受診	4	相談 (TEL 面接)						〇
12	52.1.10	1か月未満	出生届	なし	7	関小児科 南九受診	1 か月 8 か月					〇
13	51.4.28	1 か月	未熟児訪問	低体重児として把握し、母子クリニック医療機関を紹介している。	14	クリニック 市立病院 南九受診	1 か月 10 か月 1才2か月					〇
14	49.2.9	生後2日	受診 (けいせん)	2才6か月経過観察のため訪問	7	不明						〇
15	40.1.9	1 か月	未熟児訪問	母親が結核にて服薬中妊娠。未熟児訪問	10	児童相談所	5 才	〇				
								計 15	3	5	1	6

※ 研修受講状況、南九……鹿児島県主催で53年度から毎年国立療養所南九州病院にて4日間実施。

助 ……毎年実施されている助産婦研修会で、52年度心身障害について実施。

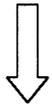
5 6 年度調査対象児のうち、生後 4 カ月以降に異常を診断され保健婦が把握した者

番号	生年月日 (年齢)	把握		診断までの 保健婦のかかわり	調査(56年8月)までの 期間	健診・相談状況		研修受講状況				
		時期	方法			名称	月令	南九のみ	助のみ	南九助	未受講	
1	50. 7.19 (6才1カ月)	不明	不明	乳健にて頭囲大だが、そんな子供はよくいると放置。5.2.3転入	1 (前任者不明)	乳水保(母子入院) 南九(入院)	3カ月 8~9カ月 2才3カ月					○
2	49. 3.19 (7才7カ月)	7才4カ月	今調査	不明 町PHNは健診、訪問で関与	0	6カ月健診 1才児 児童相談所	6カ月 1才 3才					○
3	48.10.26 (7才9カ月)	3才7カ月	3才児健診	無	5	不明						○
4	46. 8. 7 (10才)	2才9カ月	公費申請	37週2326g自宅正常分娩、2カ月まで助産婦関与。定頻遅れ放置。8カ月乳健で病院受診勧奨。	3	乳立病院健診 3才児健診	8カ月 10カ月 2才9カ月					○
5	45.10.20 (10才8カ月)	10才8カ月	今調査	無	0	鹿大受診 外科開業 南九	10日目 4カ月 1才					○
6	45. 6.23 (11才1カ月)	3才1カ月	児相の 巡回相談	無	8	乳児相談 3才児健診	10カ月 1才8カ月 4才					○
7	45. 5.25 (11才2カ月)	7才3カ月	公費申請	無 (名古屋で3カ月時入院 7カ月CP診断、1才半帰鹿)	3	6カ月健診 3才児健診	名古屋HC 3才4カ月					○
8	43.1.18 (12才8カ月)	8才7カ月	不明	無	1	記入なし						○
9	44. 1.14 (12才7カ月)	7才5カ月	不明	不明	1回	不明			○			
10	43. 7.25 (13才1カ月)	9才11カ月	福祉から 情報	無	2	不明						○
11	41. 3. 1 (15才5カ月)	15才5カ月	今調査	無	0	不明			○			
12	40. 7.18 (16才1カ月)	不明	不明	不明	8	乳健	9カ月					○
13	40. 5.25 (16才6カ月)	不明	不明	無 (母親は異常に気づいていたが1才半で受診。発育不良と診断(一般医))	3	不明						○
14	39. 2.19 (17才)	14才8カ月	訪問 (父-TB)	無 (母親は異常に気づいていたが受診なし。福祉担当者に勧奨され受診)	0 (前任者不明)	巡回相談	6才3カ月		○			
15	39. 1.18 (17才7カ月)	1才3カ月	公費申請	先天性内反足で生後30日目から外科通院。発達の遅れにて3才で受診勧奨(市立病院)	6	不明						○
※ 研修受講状況 南九……鹿児島県主催で53年度から毎年国立療養所南九州病院にて4日間実施。 助……毎年実施されている助産婦研修会で、52年度心身障害について実施。								計 15	3	0	5	7



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

乳児健診の目的の一つに障害児の早期発見があり、発見された障害児を治療や療育に結びつけることが重要であるが、確定診断の遅れや、診断後の治療や指導をうけるシステムは確立されていない。

心身障害児対策は、発生予防、早期発見、早期治療からさらには早期療育へ、又地域における保健婦等によるフォローアップまでが、出生前から乳児期、幼児期へと一貫したシステムのもとに進められることが重要となる。

以上のような考えに基づき、システム確立のための研究に昭和 55 年より取り組んだ。55 年、56 年度と早期発見、早期治療ルートづくりの為、3~4 か月児健診地区を拡大してきた。

3~4 か月児健診(二次健診)が効果的に機能するよう、出生から乳児健診をうけるまでの3~4 か月間に一定の方式を見い出すべく、危険因子チェックカードも作成し、実施を試みた。同時に母子保健水準の向上を目ざし、保健婦研修も実施してきた。

母親の障害児妊娠時の状況から、児の現在の状況までの経過について調査し、障害児(3歳から 18 歳まで)の健康管理の進め方についても検討した。